

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）  
【高等専門学校】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	G124110107265	改訂内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
高等専門学校	高専高等専門学校	設置区分	国立	事業計画名	高専高等専門学校 情報機械システム工学科 高度情報工学科設置
学校種	高等専門学校	都道府県	三重県		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（施設認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。

当初計画が変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認を赤字で記載してください。

計画の進捗遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が「2」の場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合「自己評価」は不要です。

事業年度	事業計画	取組状況	自己評価（理由）とその対応
令和5年度	<p>申請時点の入学定員＜専攻士＞0名 情報機械システム工学科 高度情報工学科 入学定員0名</p> <p>3月 情報機械システム工学科 高度情報工学科 取組定員に係る学則変更届出予定</p> <p>① 8月 新設コース設置のための必要設備の検討・入試制度の検討 ② 9月 企業からの非常勤講師の人材調査 ③ 10月 キャンパス（スタジアム）に近接した校内施設更新の検討開始・外部からの動員 ④ 10月 新設コースについての情報公開の学生募集案内・10月 新設コース周知のための中学校巡回訪問実施 ⑤ 10月 既設施設に学生定員管理システムの導入 ⑥ 1～2月 文科省専門教育課と事前協議 ⑦ 3月 文科省へ申請書類提出</p>	<p>申請時点の入学定員＜専攻士＞0名 情報機械システム工学科 高度情報工学科 入学定員0名</p> <p>3月 情報機械システム工学科 高度情報工学科 取組定員に係る学則変更届出</p> <p>① 8月 新設コース設置のための必要設備の検討・入試制度の検討 ② 9月 企業からの非常勤講師の人材調査 ③ 10月 キャンパス（スタジアム）に近接した校内施設更新の検討開始・外部からの動員 ④ 10月 新設コースについての情報公開の学生募集案内・10月 新設コース周知のための中学校巡回訪問実施 ⑤ 10月 既設施設に学生定員管理システムの導入 ⑥ 1～2月 文科省専門教育課と事前協議 ⑦ 3月 文科省へ申請書類提出</p>	<p>R5年度自己評価 ②計画を十分に実施していない</p> <p>5号館新築について、当初予定していた場所に建設することに関し、小規模な建物しか建てないことが明らかになったため、既存校舎の教室・実験室の利用量が大幅に増加となり、導入しようとした教室管理システムの設置場所が決定せず、令和5年度中に⑤PBL活動に伴う教室管理システムの導入を実施することができなかった。5号館新築の設計を令和6年度（中期）開始し、新コースの学生生活に活動する実態等について、新設、既存も含めて検討し、学生生活に支障しない管理システムを導入を検討する。</p> <p>② 8月 企業からの非常勤講師の人材調査 ③ 高専機械本部と包括連携を結んでいる企業での公募を実施、新卒先生として9名の実務家教員をリニアアップし、担当科目を決定した。 ④ 10月 キャンパス（スタジアム）に近接した校内施設更新の検討開始・外部からの動員 ⑤ 芝罘工業大学建築系の研究室からの動員を受け、校内施設更新の検討を実施した。学生のアンケート調査等の分析により、学生が自由に利用可能なオープンスペース、フリースペースの拡充が必要ということが判明した。 ⑥ 10月 新設コースについての情報公開の学生募集案内・10月 新設コース周知のための中学校巡回訪問の実施 ⑦ 新コースの設置に関して、情報公開後の情報公開に関する、三重県教育委員会との関係、協力関係、講師料設定などについて情報交換済み。中学校側には、令和6年度入試に適用することを避け、令和6年度に専攻クラスを三重県内の全中学3年生に配布すること。 ⑧ 既設施設に学生定員管理システムの導入 ⑨ 5号館新築について、当初予定していた場所に建設することが明らかになった上、小規模な建物しか建てないことが明らかになったため、既存校舎の教室・実験室の利用量が大幅に増加となり、導入しようとした教室管理システムの設置場所が決定せず、令和5年度中に施工することができなかった。年度継続となる。 ⑩ 1～2月 文科省専門教育課と事前協議 ⑪ 令和5年8月23日に校長・副校長と文科省専門教育課に相談。11月8日に校長と文科省専門教育課と、3月19日に専門教育課とメールで事前相談実施済み。 ⑫ 3月 文科省へ申請書類提出 申請書類を提出済み。</p>
令和6年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞0名</p> <p>① 4月 高度情報人材用機材整備 ② 4月 新設コース設置のための学則変更届出システムの整備 ③ 5月 新設コースの入試制度（特別選抜）の整備と公開、適宜中学校巡回訪問 ④ 6月 補正申請書提出 ⑤ 7月 施設整備設計契約締結 ⑥ 8月 新設採用の教員公募開始 ⑦ 8月 分科会決定・審判・認可 ⑧ 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑨ 9月 設置報告書提出 ⑩ 10月 特別選抜実施 ⑪ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和7年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>4月 情報機械システム工学科 高度情報工学科設置予定（入学定員40名）</p> <p>① 4月 新設コース第1期入学生受け入れ ② 5月 5号館新設工事実施（初年度） ③ 4月 高度情報人材用機材整備 ④ 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑤ 10月 特別選抜実施 ⑥ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和8年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第2期入学生受け入れ ② 4月 5号館新設工事実施（2年目） ③ 4月 高度情報人材用機材整備 ④ 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ⑤ 10月 特別選抜実施 ⑥ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和9年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第3期入学生受け入れ ② 4月 高度情報人材用機材整備 ③ 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ④ 10月 特別選抜実施 ⑤ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和10年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第4期入学生受け入れ ② 4月 高度情報人材用機材整備 ③ 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ④ 10月 特別選抜実施 ⑤ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和11年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第5期入学生受け入れ ② 4月 高度情報人材用機材整備 ③ 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ④ 10月 特別選抜実施 ⑤ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和12年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第6期入学生受け入れ ② 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ③ 10月 特別選抜実施 ④ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和13年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第7期入学生受け入れ ② 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ③ 10月 特別選抜実施 ④ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>
令和14年度	<p>【情報系組織の入学定員】＜専攻士＞40名</p> <p>① 4月 新設コース第8期入学生受け入れ ② 8～9月 特別選抜のための中学生向け講座開催 ③ 10月 特別選抜実施 ④ 1月、2月 新設コースを含む既存学科の推薦入試、一般入試の実施 情報機械システム工学科100名（高度情報工学科→240名、総合工学科→260名）、商船学科40名</p>		<p>○年度自己評価 リストから選択してください。</p>

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

## 2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の高専  
 該当無し  チェック
- ii) 学校教育法第123条で準用する第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている高専  
 該当無し  チェック
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた高専  
 該当無し  チェック
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている高専  
 該当無し  チェック
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する高専  
 該当無し  チェック

## 3. 申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた高等専門学校であること。なお、新設予定の高等専門学校で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 確認を受けている <input type="checkbox"/> 対象に該当しない	
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見直しを備えた計画となっていること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び高等専門学校での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
⑤	計画の対象となる学科・コース等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る学科・コース等の設置・増員（学科の定員の増員を伴わないものを含む。以下「学科・コース等の設置等」という。）を行う計画であり、学位種類分野変更基準に定める工学関係の学位の分野に係るものであること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学期において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学科・コース等の設置等の取組であること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
⑧	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学科・コース等の設置等を行う計画であること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
⑨	計画の対象となる学科・コース等の設置等において、20名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	
⑩	国立高等専門学校について、学校全体の収容定員の増員を伴う学科定員の増員を行う場合は、定員増を行った日から10年を経過した日までに、他学科・他コース等を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
	<input type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑪	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画となっていること。	
	<input checked="" type="checkbox"/> 計画通りに進んでいる	

フォローアップ対象年度	令和5年度	高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校
-------------	-------	---------	------------

②	文部科学省が実施する数値・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度における「リテラシーレベル」の認定を受けていること。	
	認定を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
	認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
現在、高専9校（GEAR5.0事業（農林水産業分野）の中核拠点校として、農業・水産DXを推進している。15G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定をKDDI、三重県、三重大学と締結し、情報通信研究機構から「フルカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」を委託研究し、情報通信研究機構から「フルカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」を委託研究している。また、中電CTIとも包括連携を締結し、「黒のいのち色落ち早期警戒情報」の発信、三重県と連携して生研機構委託によるAIを利用した柑橘類の灌水システムの開発、取組の取組など、十分な実績がある。本校は高専高等であり、現在、海上輸送において急速に進んでいるDXの推進、自律航行などのデジタル・スマートシップ等について、大手海運企業やGX,DXを進める港湾をもつ自治体と連携して全学的にも高度情報人材の育成に発展的に取組みつつある。	GEAR5.0事業（農林水産業分野）の中核拠点校として、農業・水産DX推進の取り組みを継続して実施した。「5G・IoT活用、海洋DX推進に向け連携協定」（KDDI、三重県、三重大学）に基づく取り組み、「フルカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み」（委託研究：情報通信研究機構）についても継続実施した。「黒のいのち色落ち早期警戒情報」の発信（包括連携：中電CTI）や三重県と連携して生研機構委託によるAIを利用した柑橘類の灌水システムの開発も継続して取り組んでいる。上記取り組みは、令和6年度も継続している。また、本校は「鳥羽丸」の代船建造が開始された。令和6年度に最新の設備を備えた練習船として就航する。遠隔操縦が可能なデジタル・スマートシップとなり、DXの推進、自律航行など高度情報人材の育成に活用する。GX,DXを推進する大手海運企業や港湾をもつ自治体との連携について意見交換を開始している。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
これまで近隣小中学校への出前授業・公開講座としてプログラミング講座などを行ってきたわけではなく、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって運営し、小中学校の子どもたちの発表の場を提供してきた。今年度から市内の小中学校では、月1回のクラブ活動として「プログラミング講座」を実施している。これは、小中学生が課外活動として取り組みたいとして希望が多かったことから実現している。このような活動を県内の小中学校で多く実施していく。本校の在校生が出身校の講師として対応することで、多くの小中学校での実践が可能になる。OECDの学びの羅針盤2030として、1. 新たな価値を創造する力。2. 対立やジレンマに対処する力。3. 責任ある行動をとる力があげられている。これらはAARサイクルとともに各項目の切口を通じて早期から情報工学に主体的に触れる機会を与えていく。	令和5年度は市内の同一小中学校で合計6回のプログラミング講座を実施した。その他にも市内外の小中学校にプログラミング講座を合計13回実施し、いずれも本校の在校生が講師や補助を務めた。それぞれの講座での開催アンケートを参考に、方法や内容を改善しAARサイクルを回している。また、U16プログラミングコンテスト三重県大会を本校が主体となって開催し、新たな価値を創造するような作品を出展してもらい、発表の場を設けた。令和6年度も継続・拡大して実施していく。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセント付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設の充実を図る。在学生が実施する女子中学生向けの講座等を実施、進学説明会等では多様な学生向けのブース設置するなど、女子学生を積極的に受け入れる。高専GCNなどへの取組も継続している。とりわけ、これらの活動をSNS等で積極的に発信する。社会人向けには、リカレント教育を実施する。連携協議会の企業からは、新入社員研修や学び直しについてAI/IoTなど情報系分野の要望があり、科目層修生として受け入れを進める。本校では、オンラインでの授業配信実績も多数あることから、企業にいがらの受講も可能にする。国際寮（多文化交流学生宿舎）の設置を計画求めている。留学生と共に生活する男女日本人学生を増加させる。新設エースの国内外の学生を入学させてグローバルなコミュニケーションを図る環境を用意する。	オープンキャンパスにおいて女子中学生を対象として「女子学生特集」と題した日程を組み、女性教員による引率・説明、女子学生によるコンテスト活動の発表やブースでの説明を実施した。また、通常の授業を中学生・保護者に見てもらえるように、オープンキャンパスとは別の通常授業日に授業・部活動見学ツアーを2日間の午前と午後の合計4回実施した。高専GCNでは本年度、豊田高専との連合チームで出場、鳥羽市で大量に発生する産業廃棄物である「杜鰈殻」を瀬戸市が得意とする産業の技術を利用して「カプセル化」することでサワードで活用可能な技術を発表し、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。SNSでの発信は積極的に実施しており、令和5年度はInstagramとXの学校公式アカウントを開発し、学生の日常風景やコンテストの結果などを配信した。社会人向けのリカレント教育については、公開講座として2件、出前授業として1件を令和5年度に実施した。連携協議会の企業からは、新入社員研修や学び直しについてAI/IoTなど情報系分野の要望があり、科目層修生として受け入れを令和6年度から進める。本校では、オンラインでの授業配信実績も多数あることから、企業にいがらの受講も可能にする。国際寮については引き続き要求中である。	女子学生をはじめ多様な学生を受け入れるため、コンセント付更衣室や化粧室、くつろぎの場等の施設の充実を図る。

④ 他の大学（外国大学を含む）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
三重大学大学院工学研究科情報工学専攻においても、本事業での定員増を検討しており、本校の専攻科を修了した学生がさらに高度な学修を希望する際の受け皿となる。上述した海洋DXの推進事業において、同大学生物資源学科とは連携を始めており、今後は本校卒業生が三重大学の修士・博士の学生として研究を継続して推進していく素地となる。また、GEAR農林水産業において、函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携した農林水産業のDX推進に取り組んでいる。すでにウの陸上養殖や柑橘栽培でAI/IoT等をフル活用しており、今回の高度情報人材育成を進めることで、これらの社会実装・人材育成が加速する。	令和6年3月に本校と三重大学において、三重大学大学院修士課程までの教育研究を前提とした協定「三重大学工学部・鳥羽商船高等専門学校連携教育プログラム」を締結し、本校専攻科と三重大学工学部の両方に在学することが可能になり、本校学生が三重大学の大学・大学院の学生として研究を継続して推進していくことができるようになった。また、海洋DXの推進事業においては三重大学大学院生物資源学専攻科のみならず、鳥羽市、鳥羽水族館等も含めて「伊勢志摩海洋教育研究アライアンス」を締結し、研究・教育で連携を進めている。さらに、GEAR農林水産業においては、引き続き函館高専、一関高専、和歌山高専、阿南高専と連携して農林水産業のDX推進に取り組んでいる。令和5年3月には本校で「GEAR農水フォーラム in 鳥羽」で学生によるビジネスプラン発表会、令和6年3月には東京の学術総合センターで「GEAR 5.0 農水シンポジウム 2023」を実施することで、社会実装を促した高度情報人材育成を進めている。	

⑦ 文部科学省が実施する数値・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度について、申請要件である「リテラシーレベル」に係る要件を満たすのみならず、更に「応用基礎レベル」の認定を受けている、又は「応用基礎レベル」の認定を受ける計画があるか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和4年度にリテラシーレベル認定済み。 令和5年度に「応用基礎レベル」の認定へ申請予定	令和4年度、リテラシーレベル認定済み。 令和5年度、応用基礎レベル認定済み。	



高等専門学校名	鳥羽商船高等専門学校	改組内容	学科・コース等の設置・増員（高専）
---------	------------	------	-------------------

## 2. 情報系組織の状況

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																		
学生の入学・在籍状況	入学者数等	入学定員(A)	人	80	80																
		入学者数(B)	人	84	80																
		女子学生数	人	14	8																
		社会入学生数	人	0	0																
		留学生数	人	0	0																
		入学定員充足率(B/A)	倍	1.05	1.00																
	収容定員等	収容定員(C)	人	400	400																
		編入学定員	人	0	0																
		在籍者数(D)	人	412	401																
		編入学者数	人	5	5																
	収容定員充足率(D/C)	倍	1.03	1.00																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	80																	
		就職者数	人	57																	
		進学者数	人	23																	
		その他	人	0																	
		進路不明	人	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の研修	教員数	人	10	10																
		授業科目の単位数	単位	23	22																

## 3. 高等専門学校全体の状況

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																	
学生の入学・在籍状況	入学者合計	入学定員(A)	人	120	120															
		入学者数(B)	人	124	122															
		入学定員充足率(B/A)	倍	1.03	1.02															
	収容定員等	収容定員(C)	人	640	640															
		編入学定員	人	0	0															
		在籍者数(D)	人	635	632															
		編入学者数	人	5	5															
	収容定員充足率(D/C)	倍	0.99	0.99																

## 4. 外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	70,649	***																	

### 特記事項

情報系組織の状況および高等専門学校全体の状況（情報機械システム工学科）及び高等専門学校全体の状況（商船学科、情報機械システム工学科）の令和5年度の編入学定員の入学定員0名とは、若干名を意味している

情報系組織の状況および高等専門学校全体の状況（情報機械システム工学科）及び高等専門学校全体の状況（商船学科、情報機械システム工学科）の令和6年度の編入学定員の入学定員0名とは、若干名を意味している